

死刑制度は廃止すべきか

反対意見 阪田祐美子

死刑廃止論の主な主張の根拠

1. 誤判説
2. 生命尊厳説
3. 死刑残虐説

(1) 誤判説

誤判説とは、死刑事件に限らず、どのような事件についても誤判の可能性は否定できないが、特に死刑事件の場合は生命そのものを奪ってしまうわけだから、誤判があった場合取り返しがつかないとして死刑制度に反対するもの。

⇒では、誤判の可能性がなければ、死刑制度が存在してもいいのか？

誤判の可能性があるから、死刑制度を廃止すべきだと、安易に主張するよりも、より正確な事実認定基準などを作成し、誤判防止に最大限の努力をするべきでは？

(2) 生命尊厳説

生命尊厳説とは、全ての人は生命権を持っており、国家や法が国民の生命を奪う権利はないという主張。

⇒では、胎児の生きる権利は？尊厳死はなぜ認められるのか？

実際には、出産は女性の権利であるとの観点から、経済的理由や母体の保護上の理由などから人工中絶が合法的に認められている。殺害者の生命権を絶対視するのなら、何の罪もない胎児の生命権をなぜ無視できるのか？

また、第三者による生命権の剥奪が認められないなら、家族や医師の手による尊厳死も認められないのでは？

(3) 死刑残虐説

死刑残虐説とは、死刑は人の生きる権利を否定するものであり、死刑は残虐かつ非人道的な刑罰だとする主張。

⇒では、核兵器などの大量破壊兵器はどうなるのか？

一人の死刑囚を死刑することすら残虐だと主張するのなら、戦時に何の罪もない非武装の民間人を多数殺害する可能性のある核兵器などのほうが、はるかに残虐であるはず。

参考文献 中野 進 2002 国際法上の死刑存置論 信山社